

化学物質等安全データシート
ポリッシングコンパウンド HD1001

作成日 2000年8月1日

改訂日 2012年1月6日

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称：	ポリッシングコンパウンド HD1001
会社名：	ミニター株式会社
住所：	東京都墨田区両国1-16-3
担当部門：	営業部
電話番号：	03-3633-7181
整理番号：	1213S046WB

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

火薬類	分類対象外
可燃性／引火性ガス	分類対象外
可燃性／引火性エアゾール	分類対象外
支燃性／酸化性ガス	分類対象外
高圧ガス	分類対象外
引火性液体	分類対象外
可燃性固体	分類できない
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	分類対象外
自然発火性固体	区分外
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	区分外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類できない
有機過氧化物	分類できない
金属腐食性物質	分類できない

健康に対する有害性

急性毒性（経口）	区分外
急性毒性（経皮）	分類できない
急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
急性毒性（吸入：粉じん）	分類できない
急性毒性（吸入：ミスト）	分類対象外
皮膚腐食性・刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	分類できない
呼吸器感作性	区分1
皮膚感作性	区分1
生殖細胞変異原性	分類できない

環境に対する有害性	発がん性	区分 1A
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性 (単回暴露)	区分 3 (気道刺激性)
	特定標的臓器・全身毒性 (反復暴露)	区分 1 (吸入：肺)
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
	水生環境急性有害性	区分 3
	水生環境慢性有害性	区分 3

ラベル要素

絵表示又はシンボル：



注意喚起語：

危険

危険有害性情報：

吸入するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起こすおそれ
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
発がんのおそれ
呼吸器への刺激のおそれ
長期又は反復暴露（吸入）による肺の障害
水生生物に有害
長期継続的影響により水生生物に有害

注意書き：

【安全対策】
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
粉じんを吸入しないこと。
必要に応じて保護眼鏡を着用すること。
呼吸用保護具／保護面、保護手袋及び保護衣を着用すること。
取扱い後はよく手を洗うこと。

【救急処置】
吸入した場合、空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】
高温を避け、換気の良い涼しい所に保管する。

【廃棄】
都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。洗浄液は無害化して廃棄する。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：	混合物	
化学名	CAS 登録番号	濃度[%]
酸化アルミニウム (Al ₂ O ₃)	1344-28-1	60
ロジン	8050-09-7	3

パラフィン	8009-03-8	5
	64742-61-6	
	63231-60-7	
鉱油	非公開	<1

※その他カルボン酸などを含む。

4. 応急措置

吸入した場合：	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合：	汚染された衣類を脱ぐこと。 皮膚を速やかに洗浄すること。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
眼に入った場合：	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合：	速やかに口をすすぎ、直ちに医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

消火剤：	初期火災には粉末消火薬剤、二酸化炭素、泡消火薬剤、乾燥砂等を用いる。大規模な火災の際には泡消火剤等を用いて空気を遮断することが有効である。
使ってはならない消火剤：	水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：	関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具（保護手袋、保護眼鏡、保護衣、長靴等）を着用すること。
環境に対する注意事項：	製品が河川・海等に排出されないように注意する。排出物を直接、河川や下水に流してはいけない。
回収、中和、封じ込め及び浄化の方法・機材：	漏洩物を空容器に回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：	「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気：	「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策（局所排気装置、全体換気）を行う。
注意事項：	屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 接触、吸入又は飲み込まないこと。

粉じんを吸入しない。
取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

技術的対策： 取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
混触禁止物質： 「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管条件： 高温を避け、換気の良い涼しい所に保管する。
容器包装材料： 破損しないものに入れる。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策： 粉じんの吸入を避けるために排気用の換気を行うこと。

保護具

呼吸器の保護具： 適切な呼吸器保護具（防塵マスク等）を着用すること。
手の保護具： 適切な保護手袋（皮手袋等）を着用すること。
眼の保護具： 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）
を着用すること。
皮膚及び身体の保護具： 保護衣、安全靴等の保護具を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色： 淡赤色固体
臭い： 微臭
pH： データなし
融点・凝固点： データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲： データなし
引火点： データなし
爆発範囲： データなし
蒸気圧： データなし
蒸気密度： データなし
比重（密度）： データなし
溶解度： 水に不溶
n-オクタノール／水分配係数： データなし
自然発火温度： データなし
分解温度： データなし

10. 安定性及び反応性

安定性、反応性： 通常の実験条件（常温）において安定。
危険有害反応可能性： ほとんどなし。
避けるべき条件： 火気、直射日光。
混触危険物質： 酸、アルカリ性物質との同一場所での保管は避ける。
危険有害な分解生成物： 特になし。

11. 有害性情報

急性毒性： 酸化アルミニウム ラット LD₅₀ >5000mg/kg（経口）¹⁾

ロジン ラット LD₅₀ 7800mg/kg (経口)²⁾
 ウサギ LD₅₀ >2500mg/kg (経皮)²⁾
 LD₅₀ 2.3mg/L (吸入：粉じん)²⁾

パラフィン ラット LD₅₀ >5000mg/kg (経口)¹⁾
 ウサギ LD₅₀ 3600mg/kg (経皮)¹⁾

鉱油 ラット LD₅₀ >5000mg/kg (経口)³⁾
 ウサギ LD₅₀ >5000mg/kg (経皮)³⁾
 ラット LD₅₀ 2.18mg/L (吸入：ミスト)³⁾

カルボン酸 ラット LD₅₀ 4640 mg/kg
 ATE_{mix}>5000 となるため区分外 (経口) とした。

皮膚腐食性及び皮膚刺激性：
 眼に対する重篤な損傷性又は眼
 刺激性：
 呼吸器感作性又は皮膚感作性：

データなし
 データなし

呼吸器感作性：ロジンは、反復或いは長期にわたり吸入すると、感作を引き起こす恐れがある。^{4) 5)}

日本職業・環境アレルギー学会で感作性化学物質にリストアップされている (日本職業・環境アレルギー学会雑誌、2004)。また、日本産業衛生学会では気道感作性物質第 1 群 (産業学会勧告、2005) に分類されている。⁶⁾

本製品はロジンを 1%以上含むため、区分 1 とした。

皮膚感作性：ロジンは、反復或いは長期にわたり吸入すると、感作を引き起こす恐れがある。^{4) 5)}

日本接触皮膚炎学会でロジン (Rosin←Colophony) を皮膚感作性物質に分類している (日本接触皮膚炎学会 HP、2006) ほか、ACGIH で SEN (ACGIH 7th、2001)、日本衛生産業学会で皮膚感作性物質第 1 群 (産業学会勧告、2005) DFG で Sh (MAK/BAT、2004) に分類されており、ACGIH (7th、2001) および DFGOT (vol. 11、1998) においてアレルギー性接触皮膚炎の症例報告がある。⁶⁾

本製品はロジンを 1%以上含むため、区分 1 とした。

生殖細胞変異原性：
 発がん性：

データなし

鉱油は、粉じんの吸入によりヒトに対する発がん性が認められる。³⁾

本製品は鉱油を 0.1%以上含むため、区分 1A とした。

生殖毒性：
 特定標的臓器毒性 (単回暴露)：

データなし

酸化アルミニウムは、上気道刺激性がある⁷⁾ との記載より区分 3 (気道刺激性) に分類。

本製品は酸化アルミニウムを 20%以上含むため、区分 3 とした。

(呼吸器への刺激のおそれ)

特定標的臓器毒性 (反復暴露)：

酸化アルミニウムは、中枢神経系に影響を及ぼす可能性がある⁷⁾ との記載より区分 1 (吸入：肺) に分類。

<p>吸引性呼吸器有害性：</p>	<p>本製品は酸化アルミニウムを 10%以上含むため、区分 1 とした。 (長期又は反復暴露 (吸入) による肺の障害) データなし</p>
<p>1 2. 環境影響情報</p> <p>生態毒性：</p>	<p>ロジンは、甲殻類 (オオミジンコ) の 48 時間 EC₅₀=4.5mg/L との記載があり、水生生物に毒性がある⁶⁾ ため、水生環境急性有害性が区分 2 に分類される。 本製品はロジンを 3%含むため、水生環境急性有害性を区分 3 とした。</p>
<p>残留性・分解性：</p>	<p>ロジンは、急性毒性が区分 2、急速分解性がなく (BOD による分解度：36-48% (IUCLID、2000))、生物蓄積性が不明であるとの記述がある⁶⁾ ため、水生環境慢性有害性が区分 2 に分類される。 本製品はロジンを 3%含むため、水生環境慢性有害性を区分 3 とした。</p>
<p>生体蓄積性：</p>	データなし
<p>土壌中の移動性：</p>	データなし
<p>オゾン層への有害性：</p>	データなし
<p>1 3. 廃棄上の注意</p> <p>残余廃棄物：</p>	<p>廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。</p>
<p>汚染容器及び包装：</p>	<p>容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。</p>
<p>1 4. 輸送上の注意</p> <p>国際規制：</p>	<p>海上輸送は 国際海上危険物規則 (IMDG Code) に従う。 航空輸送は IATA 危険物規則に従う。</p>
<p>輸送の特定の安全対策及び条件：</p>	<p>輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。 転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 輸送容器は衝撃を与えないようにていねいに扱い、激突させたり、引きずる等の粗暴な取扱いをしない。</p>
<p>1 5. 適用法令</p> <p>酸化アルミニウム</p> <p>労働安全衛生法：</p>	<p>名称等を通知すべき有害物 189 酸化アルミニウム (法第 57 条の 2 施行令第 18 条の 2 別表第 9)</p>
<p>ロジン</p>	

労働安全衛生法：	名称等を通知すべき有害物 632 ロジン (法第 57 条の 2 施行令第 18 条の 2 別表第 9)
消防法：	指定可燃物 可燃性固体類
パラフィン	
労働安全衛生法：	名称等を通知すべき有害物 170 固形パラフィン (法第 57 条の 2 施行令第 18 条の 2 別表第 9)
消防法：	指定可燃物 可燃性固体類
鉱油	
労働安全衛生法：	名称等を通知すべき有害物 168 鉱油 (法第 57 条の 2 施行令第 18 条の 2 別表第 9)
カルボン酸	
消防法：	指定可燃物 可燃性固体類

16. その他の情報

参考文献

- 1) IUCALID (2000)
- 2) Akzo Coatings Inc. "Refind Gum Rosin" MATERIAL SAFETY DATE (1990. 2. 8)
- 3) 安全衛生情報センター 製品安全データシート 鉱油 (2006 年 8 月 15 日改訂)
- 4) 日本産業衛生学 (日本産業衛生学会) 第 40 巻第 4 号 (1998 年 7 月号)
- 5) 1999 TLV and BEIs (ACGIH)
- 6) GHS 分類結果および分類根拠、独立行政法人製品評価技術基盤機構 HP (2007 年 4 月)
- 7) ICSC (2000)

※記載内容の取扱い

記載内容は情報提供であって保証するものではありません。

化学物質等安全データシート
ポリッシングコンパウンド HD1002

作成日 2000年8月1日

改訂日 2012年3月12日

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称： ポリッシングコンパウンド HD1002
会社名： ミニター株式会社
住所： 東京都墨田区両国1-16-3
担当部門： 営業部
電話番号： 03-3633-7181
整理番号： 1213K306WB

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

火薬類 分類対象外
可燃性／引火性ガス 分類対象外
可燃性／引火性エアゾール 分類対象外
支燃性／酸化性ガス 分類対象外
高压ガス 分類対象外
引火性液体 分類対象外
可燃性固体 分類できない
自己反応性化学品 分類対象外
自然発火性液体 分類対象外
自然発火性固体 区分外
自己発熱性化学品 分類できない
水反応可燃性化学品 区分外

健康に対する有害性

酸化性液体 分類対象外
酸化性固体 分類できない
有機過酸化物 分類できない
金属腐食性物質 分類できない
急性毒性（経口） 分類できない
急性毒性（経皮） 分類できない
急性毒性（吸入：ガス） 分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気） 分類できない
急性毒性（吸入：粉じん） 分類できない
急性毒性（吸入：ミスト） 分類対象外
皮膚腐食性・刺激性 分類できない
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 分類できない
呼吸器感作性 区分1
皮膚感作性 区分1
生殖細胞変異原性 分類できない

	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性 (単回暴露)	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性 (反復暴露)	分類できない
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境急性有害性	区分 3
	水生環境慢性有害性	区分 3

ラベル要素

絵表示又はシンボル：



注意喚起語：

危険

危険有害性情報：

吸入するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起こすおそれ
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
水生生物に有害
長期継続的影響により水生生物に有害

注意書き：

【安全対策】
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
粉じんを吸入しないこと。
必要に応じて保護眼鏡を着用すること。
呼吸用保護具／保護面、保護手袋及び保護衣を着用すること。
取扱い後はよく手を洗うこと。

【救急処置】
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】
高温を避け、換気の良い涼しい所に保管する。

【廃棄】
都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。洗浄液は無害化して廃棄する。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：	混合物	
化学名	CAS 登録番号	濃度[%]
結晶シリカ（トリポリ）	1317-95-9	70
ロジン	8050-09-7	3

※その他カルボン酸などを含む。

4. 応急措置

吸入した場合：	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合：	汚染された衣類を脱ぐこと。 皮膚を速やかに洗浄すること。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
眼に入った場合：	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合：	速やかに口をすすぎ、直ちに医師に連絡すること。
5. 火災時の措置	
消火剤：	初期火災には粉末消火薬剤、二酸化炭素、泡消火薬剤、乾燥砂等を用いる。大規模な火災の際には泡消火剤等を用いて空気を遮断することが有効である。
使ってはならない消火剤：	水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：	関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具（保護手袋、保護眼鏡、保護衣、長靴等）を着用すること。
環境に対する注意事項：	製品が河川・海等に排出されないように注意する。排出物を直接、河川や下水に流してはいけない。
回収、中和、封じ込め及び浄化の方法・機材：	漏洩物を空容器に回収する。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策：	「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気：	「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策（局所排気装置、全体換気）を行う。
注意事項：	屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 粉じんを吸入しない。 取扱い後はよく手を洗うこと。
保管	
技術的対策：	取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
混触禁止物質：	「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管条件：	高温を避け、換気の良い涼しい所に保管する。
容器包装材料：	破損しないものに入れる。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策：	粉じんの吸入を避けるために排気用の換気を行うこと。
保護具	
呼吸器の保護具：	適切な呼吸器保護具（防塵マスク等）を着用すること。
手の保護具：	適切な保護手袋（皮手袋等）を着用すること。
眼の保護具：	保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用すること。
皮膚及び身体の保護具：	保護衣、安全靴等の保護具を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色：	赤褐色固体
臭い：	微臭
pH：	データなし
融点・凝固点：	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲：	データなし
引火点：	データなし
爆発範囲：	データなし
蒸気圧：	データなし
蒸気密度：	データなし
比重（密度）：	データなし
溶解度：	水に不溶
n-オクタノール／水分配係数：	データなし
自然発火温度：	データなし
分解温度：	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性、反応性：	通常の取扱い条件（常温）において安定。
危険有害反応可能性：	結晶シリカは、強酸化剤と反応し、火災や爆発の危険をもたらす。フッ化水素と反応する。
避けるべき条件：	火気、直射日光。
混触危険物質：	酸、アルカリ性物質との同一場所での保管は避ける。 特に強酸化剤、フッ化水素。
危険有害な分解生成物：	特になし。

11. 有害性情報

急性毒性：	ロジン	ラット LD ₅₀ 7800mg/kg（経口） ¹⁾ ウサギ LD ₅₀ >2500mg/kg（経皮） ¹⁾ LD ₅₀ 2.3mg/L（吸入：粉じん） ¹⁾
皮膚腐食性及び皮膚刺激性：	カルボン酸	ラット LD ₀ 4640 mg/kg
眼に対する重篤な損傷性又は眼		データなし データなし

刺激性：

呼吸器感受性又は皮膚感受性：

呼吸器感受性：ロジンは、反復或いは長期にわたり吸入すると、感作を引き起こす恐れがある。^{2) 3)}

日本職業・環境アレルギー学会で感受性化学物質にリストアップされている(日本職業・環境アレルギー学会雑誌、2004)。また、日本産業衛生学会では気道感受性物質第1群(産業学会勧告、2005)に分類されている。⁴⁾

本製品はロジンを1%以上含むため、区分1とした。

皮膚感受性：ロジンは、反復或いは長期にわたり吸入すると、感作を引き起こす恐れがある。^{2) 3)}

日本接触皮膚炎学会でロジン(Rosin←Colophony)を皮膚感受性物質に分類している(日本接触皮膚炎学会HP、2006)

ほか、ACGIHでSEN(ACGIH 7th、2001)、日本衛生産業学会で皮膚感受性物質第1群(産業学会勧告、2005)DFGでSh(MAK/BAT、2004)に分類されており、ACGIH(7th、2001)およびDFGOT(vol. 11、1998)においてアレルギー性接触皮膚炎の症例報告がある。⁴⁾

本製品はロジンを1%以上含むため、区分1とした。

生殖細胞変異原性：

データなし

発がん性：

データなし

生殖毒性：

データなし

特定標的臓器毒性(単回暴露)：

データなし

特定標的臓器毒性(反復暴露)：

データなし

吸引性呼吸器有害性：

データなし

1 2. 環境影響情報

生態毒性：

ロジンは、甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC₅₀=4.5mg/Lとの記載があり、水生生物に毒性がある⁴⁾ため、急性区分2に分類。

本製品はロジンを3%含むため、区分3とした。

残留性・分解性：

ロジンは、急性毒性が区分2、急速分解性がなく(BODによる分解度：36-48%(IUCLID、2000))、生物蓄積性が不明であるとの記述がある⁴⁾ため、慢性区分2に分類。

本製品はロジンを3%含むため、区分3とした。

生体蓄積性：

データなし

土壤中の移動性：

データなし

オゾン層への有害性：

データなし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物：

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

汚染容器及び包装：

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方

自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制：

海上輸送は 国際海上危険物規則（IMDG Code）に従う。

航空輸送は IATA 危険物規則に従う。

輸送の特定の安全対策及び条件：

輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

輸送容器は衝撃を与えないようにていねいに扱い、激突させたり、引きずる等の粗暴な取扱いをしない。

15. 適用法令

結晶シリカ

労働安全衛生法：

名称等を通知すべき有害物 312 シリカ
（法第 57 条の 2 施行令第 18 条の 2 別表第 9）

ロジン

労働安全衛生法：

名称等を通知すべき有害物 632 ロジン
（法第 57 条の 2 施行令第 18 条の 2 別表第 9）

消防法：

指定可燃物 可燃性固体類

カルボン酸

消防法：

指定可燃物 可燃性固体類
（法第 57 条の 2 施行令第 18 条の 2 別表第 9）

16. その他の情報

参考文献

- 1) Akzo Coatings Inc. "Refind Gum Rosin" MATERIAL SAFETY DATE (1990. 2. 8)
- 2) 日本産業衛生学（日本産業衛生学会）第 40 巻第 4 号（1998 年 7 月号）
- 3) 1999 TLV and BEIs (ACGIH)
- 4) GHS 分類結果および分類根拠、独立行政法人製品評価技術基盤機構 HP（2007 年 4 月）

※記載内容の取扱い

記載内容は情報提供であって保証するものではありません。

製品安全データシート(MSDS)

記載内容の問合せ先

会社名 **三井物産株式会社**
住所(本社) 東京都墨田区両国 1-16-3
電話番号 03-3633-7181

製品名(化学品・商品名)

ポリッシング コンパウンド HDI003(E8005)
(Polishing Compound)

組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

化学名(又は一般名)：酸化アルミニウム、脂肪酸

成分及び含有量：酸化アルミニウム：約77%

：脂肪酸：約19%

その他界面活性剤等を含む

化学特性(化学式または構造式)： $Al_2O_3, CH_3(CH_2)_nCOOH$

官報公示整理番号(化審法)：1-23,2-608

CAS番号：1344-28-1 67701-06-8

危険有害成分

労働安全衛生法：第57条名称等を通知すべき有害物

190 酸化アルミニウム：約77%

PRT法：第1種指定化学物質

307 ポリ(オキシエチレン) = アルキルエーテル

(C = 12 - 15 及びその混合物に限る)：約1.8%

危険有害性の要約

有害性：通常の取り扱いにおいて毒性、刺激性は低いと考えられるが、眼・呼吸器・皮膚や粘膜等に比較的軽度の刺激を引き起こす可能性がある。

環境影響：本製品に含まれる脂肪酸は分解性が良好と判断される。

物理的及び化学的危険性：脂肪酸は着火源に接すると(高温になると)引火して燃える(消防法指定可燃物)。また、アルカリと接触すると発熱する。

分類の名称：分類基準に該当しない。

応急措置

吸入した場合：研磨作業時の粉塵等を大量に吸入した場合は、新鮮な空気の場所に移動し、鼻をかみ、うがいを行い、粉塵を排出する。症状によって(粘膜に刺激や悪寒等の症状が出た場合等)、医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合：布などでふき取り、石鹼で洗い流す。肌荒れを生じた場合には保護クリーム等を塗布する。

眼に入った場合：直ちに瞼を開いて、清浄な水で刺激が軽減するまで十分に洗眼する（ただし、研磨剤砥粒を含有している為、瞼を絶対にこすらないように注意する）

痛みや刺激が残る場合は眼科医の手当てを受ける。

飲み込んだ場合：水で十分に口の中を洗浄する。多量に飲み込んだ場合は吐かせ、直ちに医師の診断を受ける。被災者が意識不明や痙攣を起こしている場合は、口から何も与えてはいけなし、吐かせようとしてもいけない。

火災時の措置

消火剤：粉末、炭酸ガス、泡、ハロゲン化物、強化液、乾燥砂等。

特定の消火方法：

- ・火元への燃焼源を断ち、初期消火には粉末、炭酸ガス、乾燥砂等を用いる。
- ・大規模火災の際には泡消火剤等を用いて空気を遮断することが有効である。
- ・危険でなければ、容器を火災区域から移動させる。

消火を行う者の保護（保護具等）：

本製品は燃焼すると炭素酸化物、炭化水素等を発生する為、防災活動をする時は呼吸用保護具を着用し、風上から行う。

漏出時の措置

人体に対する注意事項：作業の際には、必要により防護具を着用する。

環境に対する注意事項：下水溝、地下水等に流してはいけない。

除去方法：破片等を回収する。洗剤及び多量の水で十分に洗い流す。

二次災害の防止策：本製品に含まれる脂肪酸の引火点は高いが、付近の着火源となりそうなものは速やかに取り除き、消火機材を用意する事。

取り扱い及び保管上の注意

取り扱い：技術的対策（取扱者の暴露防止、火災爆発の防止等）

- ・バフ等に塗布して研磨作業を行うと、製品原料や研磨かす等から粉塵が発生する。これらの微粉やバフの繊維等の粉塵を長期間にわたって吸入すると肺組織を徐々に損ない塵肺病の原因となるため、吸入防止に保護マスクを着用する。
- ・屋外で取り扱う場合は、出来るだけ風上にて作業する。

注意事項（局所排気、全体排気、エアロゾル・粉塵発生防止等）

- ・労働安全衛生規則第576条及び第577条は、粉塵を発散させる屋内作業場を有害な作業場と認識し、それらの含有濃度が有害な程度にならないよう発生源を密閉する設備、局所排気装置または全体換気装置を設ける等、粉塵障害防止の為の必要な措置を講じる（労働安全衛生法第22条）よう事業者には義務付けている。
- ・漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させない。
- ・フォークリフトの制御部等に付着すると、制御が効かなくなる恐れがある為、作業場内の清掃を励行する。

安全取り扱い注意事項（混合接触防止、接触回避等）

- ・点火源から遠ざける
- ・高温物や強酸化剤との接触を避ける。

保管：適切な保管条件

- ・直射日光を避け、換気の良い暗所に保管する。
- ・アルカリ性物質との同居を避ける。

暴露防止及び保護措置

設備対策

- ・バフ研磨装置での集塵装置、研磨粉塵発生源の密閉、局所排気装置等を設ける。
- ・取り扱い場所の近くに手洗い、洗顔設備を設け、その位置を明確に表示する。

保護具

- ・呼吸器用の保護具：防塵マスク
- ・手の保護具：ゴム手袋
- ・眼の保護具：安全ゴーグル等
- ・皮膚及び身体の保護具：状況に応じゴム長靴、前掛け

適切な衛生対策

- ・マスク等の交換は定期または使用の都度行う。

物理的及び化学的性質

物理的状态

形状：固形成型体

色：白色

臭い：脂肪酸臭

pH：知見なし

物理的状态が変化する特定の温度/湿度範囲

沸点：232℃ (ステアリン酸の代表値)

融点：69～70℃ (ステアリン酸の代表値)

引火点：196.1℃ (ステアリン酸の代表値)

密度：0.8386(80℃) (ステアリン酸の代表値)

溶解性

溶媒に対する溶解性

水：難溶、アセトン・アルコール・エーテル・クロロホルム・ヘキサン・ベンゼン等に易溶 (当製品に含まれる脂肪酸の溶解性)

安定性及び反応性

安定性：通常条件では安定

反応性：当製品に含まれる脂肪酸は苛性ソーダ・苛性カリ等アルカリ物質と反応して容易に塩を生成するが、危険性・有害性は無い。

避けるべき条件：常温での取り扱いでは安定だが、本品を溶解して鉄・銅等の金属類と長期間接触すると腐食性を示す。

危険有害な分解生成物：知見なし

有害性情報

急性毒性：知見なし

局所効果(皮膚、目など)：

眼・呼吸器・皮膚や粘膜等に刺激を引き起こす可能性がある。

環境影響情報

残留性 / 分解性：当製品に含まれる脂肪酸は分解性が良好と判断される。

廃棄上の注意

「取り扱い及び保管上の注意」の項の記載による他、該当法規に従って廃棄物処理を行うこと。

(酸化クロムそのものの廃棄は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び関連法令に従い、管理型の最終処分場に埋め立て処分しなければならない)

輸送上の注意

国際規制：知見なし

国連分類：当製品に含まれる脂肪酸は国連の基準に該当しない。

適用法令

酸化アルミニウム：

- ・労働安全衛生法
- ・粉じん障害防止規則
- ・じん肺法
- ・じん肺法施行規則

脂肪酸：

- ・消防法：非危険物 指定可燃物 可燃性固体類(指定数量3,000 Kg)
-

その他の情報

引用文献等

- ・製品安全データシートの作成指針
 - ・12996の化学商品
 - ・使用原料の各社「MSDS」
-

記載内容の取り扱い

全ての資料や文献を調査したわけではない為、情報漏れがあるかも知れません。また、新しい知見の発表や従来への訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保障値ではありません。また、注意事項は通常的な取り扱いを対象としたものなので、特殊な取り扱いの場合には、この点にご配慮をお願い致します。

製品安全データシート(MSDS)

ポリッシングコンパウンド HD1004

作成日 2008年4月2日

改訂日 2012年9月25日

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称:	ポリッシングコンパウンド HD1004
会社名:	ミニター株式会社
住所:	東京都墨田区両国1-16-3
担当部門:	営業部
電話番号:	03-3633-7181
整理番号:	1223AA01WB

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

火薬類	分類対象外
可燃性/引火性ガス	分類対象外
可燃性/引火性エアゾール	分類対象外
支燃性/酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	分類対象外
可燃性固体	分類できない
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	分類対象外
自然発火性固体	区分外
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	区分外

酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類できない
有機過酸化物	分類できない
金属腐食性物質	分類できない
急性毒性(経口)	区分外
急性毒性(経皮)	分類できない
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
急性毒性(吸入:粉じん)	分類できない
急性毒性(吸入:ミスト)	分類対象外
皮膚腐食性・刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	分類できない
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない

健康に対する有害性

環境に対する有害性	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性 (単回暴露)	区分3 (気道刺激性)
	特定標的臓器・全身毒性 (反復暴露)	区分1 (吸入：肺)
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
	水生環境急性有害性	分類できない
	水生環境慢性有害性	分類できない

ラベル要素

絵表示又はシンボル：



注意喚起語：

危険

危険有害性情報：

呼吸器への刺激のおそれ
長期又は反復暴露（吸入）による肺の障害

注意書き：

【安全対策】
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
粉じんを吸入しないこと。
必要に応じて保護眼鏡を着用すること。
呼吸用保護具／保護面、保護手袋及び保護衣を着用すること。
取扱い後はよく手を洗うこと。

【救急処置】
吸入した場合、空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】
高温を避け、換気の良い涼しい所に保管する。

【廃棄】
都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。洗浄液は無害化して廃棄する。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：	混合物	
化学名	CAS 登録番号	濃度[%]
酸化アルミニウム (Al ₂ O ₃)	1344-28-1	77

※その他カルボン酸などを含む。

4. 応急措置

吸入した場合：

被災者を新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合：	汚染された衣類を脱ぐこと。 皮膚を速やかに洗浄すること。
眼に入った場合：	汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合：	速やかに口をすすぎ、直ちに医師に連絡すること。
5. 火災時の措置	
消火剤：	初期火災には粉末消火薬剤、二酸化炭素、泡消火薬剤、乾燥砂等を用いる。大規模な火災の際には泡消火剤等を用いて空気を遮断することが有効である。
使ってはならない消火剤：	水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：	関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具（保護手袋、保護眼鏡、保護衣、長靴等）を着用すること。
環境に対する注意事項：	製品が河川・海等に排出されないように注意する。排出物を直接に河川や下水に流してはいけない。
回収、中和、封じ込め及び浄化の方法・機材：	漏洩物を空容器に回収する。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策：	「B. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気：	「B. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策（局所排気装置、全体換気）を行う。
注意事項：	屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 粉じんを吸入しない。 取扱い後はよく手を洗うこと。
保管	
技術的対策：	取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
混触禁止物質：	「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管条件：	高温を避け、換気の良い涼しい所に保管する。
容器包装材料：	破損しないものに入れる。
8. 暴露防止及び保護措置	
設備対策：	粉じんの吸入を避けるために排気用の換気を行うこと。

保護具

呼吸器の保護具：	適切な呼吸器保護具（防塵マスク等）を着用すること。
手の保護具：	適切な保護手袋（皮手袋等）を着用すること。
眼の保護具：	保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用すること。
皮膚及び身体の保護具：	保護衣、安全靴等の保護具を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态、形状、色：	白色固体
臭い：	微臭
pH：	データなし
融点・凝固点：	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲：	データなし
引火点：	データなし
爆発範囲：	データなし
蒸気圧：	データなし
蒸気密度：	データなし
比重（密度）：	データなし
溶解度：	水に不溶
n-オクタノール／水分配係数：	データなし
自然発火温度：	データなし
分解温度：	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性、反応性：	通常の実取扱い条件（常温）において安定。
危険有害反応可能性：	ほとんどなし。
避けるべき条件：	火気、直射日光。
混触危険物質：	酸、アルカリ性物質との同一場所での保管は避ける。
危険有害な分解生成物：	特になし。

11. 有害性情報

急性毒性：	酸化アルミニウム ラット LD ₅₀ >5000 mg/kg（経口） ¹⁾ カルボン酸 ラット LD ₅₀ 4640 mg/kg ATE _{mx} >5000 となるため区分外（経口）とした。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性：	データなし
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：	データなし
呼吸器感作性又は皮膚感作性：	データなし
生殖細胞変異原性：	データなし
発がん性：	データなし
生殖毒性：	データなし
特定標的臓器毒性（単回暴露）：	酸化アルミニウムは、上気道刺激性がある ²⁾ との記載より区

	分3（気道刺激性）に分類。 本製品は酸化アルミニウムを20%以上含むため、区分3とした。 （呼吸器への刺激のおそれ） 酸化アルミニウムは、中枢神経系に影響を及ぼす可能性がある ²⁾ との記載より区分1（吸入：肺）に分類。 本製品は酸化アルミニウムを10%以上含むため、区分1とした。 （長期又は反復暴露（吸入）による肺の障害）
特定標的臓器毒性（反復暴露）：	
吸引性呼吸器有害性：	データなし
1 2. 環境影響情報	
生態毒性：	データなし
残留性・分解性：	データなし
生体蓄積性：	データなし
土壤中の移動性：	データなし
オゾン層への有害性：	データなし
1 3. 廃棄上の注意	
残余廃棄物：	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装：	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
1 4. 輸送上の注意	
国際規制：	海上輸送は 国際海上危険物規則（IMDG Code）に従う。 航空輸送は IATA 危険物規則に従う。
輸送の特定の安全対策及び条件：	輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。 転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 輸送容器は衝撃を与えないようにていねいに扱い、激突させたり、引きずる等の粗暴な取扱いをしない。
1 5. 適用法令	
酸化アルミニウム 労働安全衛生法：	名称等を通知すべき有害物 189 酸化アルミニウム （法第57条の2 施行令第18条の2 別表第9）
カルボン酸 消防法：	指定可燃物 可燃性固体類
1 6. その他の情報	

参考文献

- 1) IUCLID (2000)
- 2) ICSC (2000)

※記載内容の取扱い

記載内容は情報提供であって保証するものではありません。

化学物質等安全データシート
ポリッシングコンパウンド HD1005

作成日 2000年8月1日

改訂日 2012年1月6日

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称： ポリッシングコンパウンド HD1005
会社名： ミニター株式会社
住所： 東京都墨田区両国1-16-3
担当部門： 営業部
電話番号： 03-3633-7181
整理番号： 1223A005WB

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

火薬類	分類対象外
可燃性／引火性ガス	分類対象外
可燃性／引火性エアゾール	分類対象外
支燃性／酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	分類対象外
可燃性固体	分類できない
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	分類対象外
自然発火性固体	区分外
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	区分外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類できない
有機過酸化物	分類できない
金属腐食性物質	分類できない
急性毒性（経口）	区分外
急性毒性（経皮）	分類できない
急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
急性毒性（吸入：粉じん）	分類できない
急性毒性（吸入：ミスト）	分類対象外
皮膚腐食性・刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	分類できない
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない

健康に対する有害性

	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性 (単回暴露)	区分3(気道刺激性)
	特定標的臓器・全身毒性 (反復暴露)	区分1(吸入:肺)
環境に対する有害性	吸引性呼吸器有害性	分類できない
	水生環境急性有害性	分類できない
	水生環境慢性有害性	分類できない

ラベル要素

絵表示又はシンボル:



注意喚起語:

危険

危険有害性情報:

呼吸器への刺激のおそれ

長期又は反復暴露(吸入)による肺の障害

注意書き:

【安全対策】

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

粉じんを吸入しないこと。

必要に応じて保護眼鏡を着用すること。

呼吸用保護具/保護面、保護手袋及び保護衣を着用すること。

取扱い後はよく手を洗うこと。

【救急処置】

吸入した場合、空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】

高温を避け、換気の良い涼しい所に保管する。

【廃棄】

都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。洗浄液は無害化して廃棄する。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別:	混合物	
化学名	CAS登録番号	濃度[%]
酸化アルミニウム (Al ₂ O ₃)	1344-28-1	77

※その他カルボン酸などを含む。

4. 応急措置

吸入した場合:

被災者を新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合： 汚染された衣類を脱ぐこと。
皮膚を速やかに洗浄すること。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

眼に入った場合： 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合： 速やかに口をすすぎ、直ちに医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

消火剤： 初期火災には粉末消火薬剤、二酸化炭素、泡消火薬剤、乾燥砂等を用いる。大規模な火災の際には泡消火剤等を用いて空気を遮断することが有効である。

使ってはならない消火剤： 水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置： 関係者以外の立入りを禁止する。
作業者は適切な保護具（保護手袋、保護眼鏡、保護衣、長靴等）を着用すること。

環境に対する注意事項： 製品が河川・海等に排出されないように注意する。排出物を直接に河川や下水に流してはいけない。
漏洩物を空容器に回収する。

回収、中和、封じ込め及び浄化の方法・機材：

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策： 「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気： 「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策（局所排気装置、全体換気）を行う。

注意事項： 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
接触、吸入又は飲み込まないこと。
粉じんを吸入しない。
取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

技術的対策： 取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。

混触禁止物質： 「10. 安定性及び反応性」を参照。

保管条件： 高温を避け、換気の良い涼しい所に保管する。

容器包装材料： 破損しないものに入れる。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策： 粉じんの吸入を避けるために排気用の換気を行うこと。

保護具

呼吸器の保護具：	適切な呼吸器保護具（防塵マスク等）を着用すること。
手の保護具：	適切な保護手袋（皮手袋等）を着用すること。
眼の保護具：	保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用すること。
皮膚及び身体の保護具：	保護衣、安全靴等の保護具を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色：	白色固体
臭い：	微臭
pH：	データなし
融点・凝固点：	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲：	データなし
引火点：	データなし
爆発範囲：	データなし
蒸気圧：	データなし
蒸気密度：	データなし
比重（密度）：	データなし
溶解度：	水に不溶
n-オクタノール／水分配係数：	データなし
自然発火温度：	データなし
分解温度：	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性、反応性：	通常取り扱い条件（常温）において安定。
危険有害反応可能性：	ほとんどなし。
避けるべき条件：	火気、直射日光。
混触危険物質：	酸、アルカリ性物質との同一場所での保管は避ける。
危険有害な分解生成物：	特になし。

11. 有害性情報

急性毒性：	酸化アルミニウム ラット LD ₅₀ >5000mg/kg（経口） ¹⁾ カルボン酸 ラット LD ₀ 4640 mg/kg ATE _{mix} >5000 となるため区分外（経口）とした。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性：	データなし
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：	データなし
呼吸器感作性又は皮膚感作性：	データなし
生殖細胞変異原性：	データなし
発がん性：	データなし
生殖毒性：	データなし
特定標的臓器毒性（単回暴露）：	酸化アルミニウムは、上気道刺激性がある ²⁾ との記載より区

	分3（気道刺激性）に分類。 本製品は酸化アルミニウムを20%以上含むため、区分3とした。 （呼吸器への刺激のおそれ）
特定標的臓器毒性（反復暴露）：	酸化アルミニウムは、中枢神経系に影響を及ぼす可能性がある ²⁾ との記載より区分1（吸入：肺）に分類。 本製品は酸化アルミニウムを10%以上含むため、区分1とした。 （長期又は反復暴露（吸入）による肺の障害）
吸引性呼吸器有害性：	データなし
1 2. 環境影響情報	
生態毒性：	データなし
残留性・分解性：	データなし
生体蓄積性：	データなし
土壌中の移動性：	データなし
オゾン層への有害性：	データなし
1 3. 廃棄上の注意	
残余廃棄物：	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装：	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
1 4. 輸送上の注意	
国際規制：	海上輸送は 国際海上危険物規則（IMDG Code）に従う。 航空輸送は IATA 危険物規則に従う。
輸送の特定の安全対策及び条件：	輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。 転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 輸送容器は衝撃を与えないようにていねいに扱い、激突させたり、引きずる等の粗暴な取扱いをしない。
1 5. 適用法令	
酸化アルミニウム	
労働安全衛生法：	名称等を通知すべき有害物 189 酸化アルミニウム （法第57条の2 施行令第18条の2 別表第9）
カルボン酸	
消防法：	指定可燃物 可燃性固体類
1 6. その他の情報	

参考文献

- 1) IUCLID (2000)
- 2) ICSC (2000)

※記載内容の取扱い

記載内容は情報提供であって保証するものではありません。

化学物質等安全データシート
ポリッシングコンパウンド HD1006

作成日 2000年8月1日

改訂日 2012年1月6日


1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称： ポリッシングコンパウンド HD1006
会社名： ミニター株式会社
住所： 東京都墨田区両国 1-16-3
担当部門： 営業部
電話番号： 03-3633-7181
整理番号： 1222K001WB

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	可燃性／引火性ガス	分類対象外
	可燃性／引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性／酸化性ガス	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	分類できない
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	区分外
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	区分外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類できない
	有機過酸化物	分類できない
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	分類できない
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：粉じん）	分類できない
	急性毒性（吸入：ミスト）	分類対象外
	皮膚腐食性・刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	区分 1
	皮膚感作性	区分 1
	生殖細胞変異原性	分類できない

	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性 (単回暴露)	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性 (反復暴露)	分類できない
環境に対する有害性	吸引性呼吸器有害性	分類できない
	水生環境急性有害性	区分 1
	水生環境慢性有害性	区分 1
ラベル要素		
絵表示又はシンボル：		
注意喚起語：	危険	
危険有害性情報：	吸入するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起こすおそれ アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ 水生生物に非常に強い毒性 長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性	
注意書き：	【安全対策】 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 粉じんを吸入しないこと。 必要に応じて保護眼鏡を着用すること。 呼吸用保護具／保護面、保護手袋及び保護衣を着用すること。 取扱い後はよく手を洗うこと。 【救急処置】 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。 【保管】 高温を避け、換気の良い涼しい所に保管する。 【廃棄】 都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。洗浄液は無害化して廃棄する。	

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：	混合物	
化学名	CAS 登録番号	濃度[%]
酸化クロム (Cr ₂ O ₃)	1308-38-9	86

※その他カルボン酸などを含む。

4. 応急措置

吸入した場合： 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿

皮膚に付着した場合：	勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。 汚染された衣類を脱ぐこと。 皮膚を速やかに洗浄すること。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
眼に入った場合：	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合：	速やかに口をすすぎ、直ちに医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

消火剤：	初期火災には粉末消火薬剤、二酸化炭素、泡消火薬剤、乾燥砂等を用いる。大規模な火災の際には泡消火剤等を用いて空気を遮断することが有効である。
使ってはならない消火剤：	水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：	関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具（保護手袋、保護眼鏡、保護衣、長靴等）を着用すること。
環境に対する注意事項：	製品が河川・海等に排出されないように注意する。排出物を直接、河川や下水に流してはいけない。
回収、中和、封じ込め及び浄化の方法・機材：	漏洩物を空容器に回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策：	「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気：	「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策（局所排気装置、全体換気）を行う。
注意事項：	屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 粉じんを吸入しない。 取扱い後はよく手を洗うこと。
保管	
技術的対策：	取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
混触禁止物質：	「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管条件：	高温を避け、換気の良い涼しい所に保管する。
容器包装材料：	破損しないものに入れる。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策：	粉じんの吸入を避けるために排気用の換気を行うこと。
保護具	
呼吸器の保護具：	適切な呼吸器保護具（防塵マスク等）を着用すること。
手の保護具：	適切な保護手袋（皮手袋等）を着用すること。
眼の保護具：	保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用すること。
皮膚及び身体の保護具：	保護衣、安全靴等の保護具を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态、形状、色：	緑色固体
臭い：	微臭
pH：	データなし
融点・凝固点：	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲：	データなし
引火点：	データなし
爆発範囲：	データなし
蒸気圧：	データなし
蒸気密度：	データなし
比重（密度）：	データなし
溶解度：	水に不溶
n-オクタノール／水分配係数：	データなし
自然発火温度：	データなし
分解温度：	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性、反応性：	通常 of 取扱い条件（常温）において安定。
危険有害反応可能性：	ほとんどなし。
避けるべき条件：	火気、直射日光。
混触危険物質：	酸、アルカリ性物質との同一場所での保管は避ける。
危険有害な分解生成物：	特になし。

11. 有害性情報

急性毒性：	カルボン酸 ラット LD ₅₀ 4640 mg/kg
皮膚腐食性及び皮膚刺激性：	データなし
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：	データなし
呼吸器感作性又は皮膚感作性：	呼吸器感作性：既存分類情報に基づくと、日本職業・環境アレルギー学会特設委員会はクロムを呼吸器感作性がある物質、日本産業衛生学会はクロムを気道感作性物質「第2群」に分類している。これらの既存分類は酸化クロム（Cr ₂ O ₃ ）を明示していないものの、クロム化合物である酸化クロムも

呼吸器感作性を有すると考えられ、区分 1 に分類。

本製品は酸化クロムを 1%以上含むため、区分 1 とした。

皮膚感作性：既存分類情報に基づくと、日本職業・環境アレルギー学会特設委員会はクロムを皮膚感作性がある物質、日本産業衛生学会はクロムを皮膚感作性物質「第 1 群」に分類している。これらの既存分類は酸化クロムを明示していないものの、クロム化合物である酸化クロムも皮膚感作性を有すると考えられ、区分 1 に分類。

本製品は酸化クロムを 1%以上含むため、区分 1 とした。

生殖細胞変異原性：	データなし
発がん性：	データなし
生殖毒性：	データなし
特定標的臓器毒性（単回暴露）：	データなし
特定標的臓器毒性（反復暴露）：	データなし
吸引性呼吸器有害性：	データなし

1 2. 環境影響情報

生態毒性：	酸化クロムの水生環境急性有害性は、甲殻類（オオミジンコ）の 48 時間 $LC_{50}=0.162\text{mg/L}^1$ から、区分 1 に分類される。 本製品は酸化クロムを 86%以上含むため、水生環境急性有害性を区分 1 とした。
残留性・分解性：	酸化クロムは、急性毒性が区分 1、金属化合物であり水中での挙動及び生物蓄積性が不明であるため、水生環境慢性有害性は区分 1 に分類される。 本製品は酸化クロムを 86%以上含むため、水生環境慢性有害性を区分 1 とした。
生体蓄積性：	データなし
土壤中の移動性：	データなし
オゾン層への有害性：	データなし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物：	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装：	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

国際規制：	海上輸送は 国際海上危険物規則（IMDG Code）に従う。 航空輸送は IATA 危険物規則に従う。
輸送の特定の安全対策及び条件：	輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。 転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確

実に行う。

輸送容器は衝撃を与えないようにていねいに扱い、激突させたり、引きずる等の粗暴な取扱いをしない。

15. 適用法令

酸化クロム

労働安全衛生法： 名称等を通知すべき有害物 142 クロム及びその化合物
(法第 57 条の 2 施行令第 18 条の 2 別表第 9)

化学物質管理促進法 (PRTR 法)： 第 1 種指定化学物質 87 クロム及び三価クロム化合物
(法第 2 第 2 項 施行令第 1 条別表第 1)

カルボン酸

消防法： 指定可燃物 可燃性固体類

16. その他の情報

参考文献

1) CERi ハザードデータ集 (2002)

※記載内容の取扱い

記載内容は情報提供であって保証するものではありません。

化学物質等安全データシート
ポリッシングコンパウンド HD1007

作成日 2000年8月1日

改訂日 2012年1月6日

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称：	ポリッシングコンパウンド HD1007
会社名：	ミニター株式会社
住所：	東京都墨田区両国1-16-3
担当部門：	営業部
電話番号：	03-3633-7181
整理番号：	1222G546WB


2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

火薬類	分類対象外
可燃性／引火性ガス	分類対象外
可燃性／引火性エアゾール	分類対象外
支燃性／酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	分類対象外
可燃性固体	分類できない
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	分類対象外
自然発火性固体	区分外
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	区分外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類できない
有機過氧化物	分類できない
金属腐食性物質	分類できない
急性毒性（経口）	分類できない
急性毒性（経皮）	分類できない
急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
急性毒性（吸入：粉じん）	分類できない
急性毒性（吸入：ミスト）	分類対象外
皮膚腐食性・刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	分類できない
呼吸器感作性	区分1
皮膚感作性	区分1
生殖細胞変異原性	分類できない

健康に対する有害性

	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性 (単回暴露)	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性 (反復暴露)	分類できない
環境に対する有害性	吸引性呼吸器有害性	分類できない
	水生環境急性有害性	区分 1
	水生環境慢性有害性	区分 1
ラベル要素		
絵表示又はシンボル：		
注意喚起語：	危険	
危険有害性情報：	吸入するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起こすおそれ アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ 水生生物に非常に強い毒性 長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性	
注意書き：	【安全対策】 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 粉じんを吸入しないこと。 必要に応じて保護眼鏡を着用すること。 呼吸用保護具／保護面、保護手袋及び保護衣を着用すること。 取扱い後はよく手を洗うこと。 【救急処置】 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。 【保管】 高温を避け、換気の良い涼しい所に保管する。 【廃棄】 都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。洗浄液は無害化して廃棄する。	

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：	混合物	
化学名	CAS 登録番号	濃度[%]
酸化クロム (Cr ₂ O ₃)	1308-38-9	85

※その他カルボン酸などを含む。

4. 応急措置

吸入した場合： 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢

皮膚に付着した場合：	勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。 汚染された衣類を脱ぐこと。 皮膚を速やかに洗浄すること。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
眼に入った場合：	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合：	速やかに口をすすぎ、直ちに医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

消火剤：	初期火災には粉末消火薬剤、二酸化炭素、泡消火薬剤、乾燥砂等を用いる。大規模な火災の際には泡消火剤等を用いて空気を遮断することが有効である。
使ってはならない消火剤：	水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：	関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具（保護手袋、保護眼鏡、保護衣、長靴等）を着用すること。
環境に対する注意事項：	製品が河川・海等に排出されないように注意する。排出物を直接、河川や下水に流してはいけない。
回収、中和、封じ込め及び浄化の方法・機材：	漏洩物を空容器に回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策：	「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気：	「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策（局所排気装置、全体換気）を行う。
注意事項：	屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 粉じんを吸入しない。 取扱い後はよく手を洗うこと。
保管	
技術的対策：	取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
混触禁止物質：	「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管条件：	高温を避け、換気の良い涼しい所に保管する。
容器包装材料：	破損しないものに入れる。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策：

粉じんの吸入を避けるために排気用の換気を行うこと。

保護具

呼吸器の保護具：

適切な呼吸器保護具（防塵マスク等）を着用すること。

手の保護具：

適切な保護手袋（皮手袋等）を着用すること。

眼の保護具：

保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用すること。

皮膚及び身体の保護具：

保護衣、安全靴等の保護具を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色：

緑色固体

臭い：

微臭

pH：

データなし

融点・凝固点：

データなし

沸点、初留点及び沸騰範囲：

データなし

引火点：

データなし

爆発範囲：

データなし

蒸気圧：

データなし

蒸気密度：

データなし

比重（密度）：

データなし

溶解度：

水に不溶

n-オクタノール／水分配係数：

データなし

自然発火温度：

データなし

分解温度：

データなし

10. 安定性及び反応性

安定性、反応性：

通常の手扱い条件（常温）において安定。

危険有害反応可能性：

ほとんどなし。

避けるべき条件：

火気、直射日光。

混触危険物質：

酸、アルカリ性物質との同一場所での保管は避ける。

危険有害な分解生成物：

特になし。

11. 有害性情報

急性毒性：

カルボン酸 ラット LD₅₀ 4640 mg/kg

皮膚腐食性及び皮膚刺激性：

データなし

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：

データなし

呼吸器感作性又は皮膚感作性：

呼吸器感作性：既存分類情報に基づくと、日本職業・環境アレルギー学会特設委員会はクロムを呼吸器感作性がある物質、日本産業衛生学会はクロムを気道感作性物質「第2群」に分類している。これらの既存分類は酸化クロム（Cr₂O₃）を明示していないものの、クロム化合物である酸化クロムも

呼吸器感作性を有すると考えられ、区分1に分類。
本製品は酸化クロムを1%以上含むため、区分1とした。
皮膚感作性：既存分類情報に基づくと、日本職業・環境アレルギー学会特設委員会はクロムを皮膚感作性がある物質、日本産業衛生学会はクロムを皮膚感作性物質「第1群」に分類している。これらの既存分類は酸化クロムを明示していないものの、クロム化合物である酸化クロムも皮膚感作性を有すると考えられ、区分1に分類。
本製品は酸化クロムを1%以上含むため、区分1とした。

生殖細胞変異原性： データなし
発がん性： データなし
生殖毒性： データなし
特定標的臓器毒性（単回暴露）： データなし
特定標的臓器毒性（反復暴露）： データなし
吸引性呼吸器有害性： データなし

1.2. 環境影響情報

生態毒性： 酸化クロムの水生環境急性有害性は、甲殻類（オオミジンコ）の48時間LC₅₀=0.162mg/L¹⁾から、区分1に分類される。
本製品は酸化クロムを85%以上含むため、水生環境急性有害性を区分1とした。
残留性・分解性： 酸化クロムは、急性毒性が区分1、金属化合物であり水中での挙動及び生物蓄積性が不明であるため、水生環境慢性有害性は区分1に分類される。
本製品は酸化クロムを85%以上含むため、水生環境慢性有害性を区分1とした。
生体蓄積性： データなし
土壌中の移動性： データなし
オゾン層への有害性： データなし

1.3. 廃棄上の注意

残余廃棄物： 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装： 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1.4. 輸送上の注意

国際規制： 海上輸送は 国際海上危険物規則（IMDG Code）に従う。
航空輸送は IATA 危険物規則に従う。
輸送の特定の安全対策及び条件： 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。
転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確

突に行う。

輸送容器は衝撃を与えないようにていねいに扱い、激突させたり、引きずる等の粗暴な取扱いをしない。

15. 適用法令

酸化クロム

労働安全衛生法：

名称等を通知すべき有害物 142 クロム及びその化合物
(法第 57 条の 2 施行令第 18 条の 2 別表第 9)

化学物質管理促進法 (PRTR 法)：

第 1 種指定化学物質 87 クロム及び三価クロム化合物
(法第 2 第 2 項 施行令第 1 条別表第 1)

カルボン酸

消防法：

指定可燃物 可燃性固体類

16. その他の情報

参考文献

- 1) CERl ハザードデータ集 (2002)

※記載内容の取扱い

記載内容は情報提供であって保証するものではありません。